

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	松岡 知子
通学キャンパス			
論文題目	第一反抗期が出現する子どもを養育する初産婦の 育児ストレスの特徴と要因—質的・量的による分析—		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について：第一次反抗期が始まり、育児休暇の終了から復職時期に重なる1歳8か月時点における初産婦の育児ストレスに注目し、母親のストレス軽減のための支援方法を探る研究である。 2つの研究からなるいわゆる mixed methods を用いたもので、まず、①1歳8か月児検診に来所した第一子を養育する母親のうち、14名を対象に、子育てで感じていることや困っていることについて半構造化面接を行い、内容分析の手法を用いて質的に分析している。次いで、②第一子を養育する母親128人から調査票回答を得て基本データとし、牧野の育児不安尺度のうち育児ストレス得点を従属変数とし、就業の有無や親との居住距離などの属性、子どもを預ける経験や抵抗感、子育てに対する価値観、性別役割分業感などの項目を独立変数とし、Spearmanの順位相関係数を用いて分析した。さらに有意な相関があった項目を対象としてAMOS(version23)を用いてパス図を作成、最尤法にて共分散分析を行った。 その結果、1歳8か月児を初めて養育する母親の育児ストレス提言に向けては、「子育てを手伝ってくれる人がいない孤独な状況」「子育てに価値を見いだせない」「就業継続・再開の負担感」の3つの課題について支援を図っていくことが必要との結論に至っている。 副論文については、審査開始時に、刊行すみの2編の論文を確認した。</p> <p>2. 審査会は第1回を8月9日に開催したが、質的研究部分の方法論の記載不足、論旨展開から外れた記述の混在や文献の引用、などいくつか問題点があったために論文の修正を求めた。第2回は8月22日に開催し再提出された論文で、おおむね適切に修正されたことを審査で確認した。ただし、図表の内容と本文表記の重複など、形式上にも修正点があり、9月5日までに修正・追加がなされた。</p> <p>3. 各審査での口頭試問および修正論文において明瞭な発表を行い、結果の解釈などについての質問に的確に答え、指摘された部分については真摯に対応し適切に対応した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	赤居 正美	
	副 査	江幡 芳枝	
	副 査	原田 広枝	